

# 「自立した学習者」の育成をめざす授業について考える

【中学校】初任者研修に係る校外研修「授業参観」(中) 令和7年7月10日(木) 【日田教育事務所】

◆**要旨**◆ <参加者>管内中学校初任者、教育事務所指導課員

○**目的**… 令和7年度初任者研修の対象者に対し、教科指導に係る授業参観・研究協議を通して、実践的指導力の向上を図る。

○**授業参観及び協議の視点**

「授業中における自立した学習者の育成について  
～子どもを主語とした授業づくり～」

【協議の柱】・子どもを主語とした授業展開につながる教師の手立て、その効果について  
・「努力を要する状況」の児童の見取り、個に応じた支援や手立ての工夫について  
・深い学びにつながる「振り返り」について



## 授業の概要

◆中学校 第3学年 国語科

◆**単元名** 「条件に応じて説得力のある文章を書こう」  
◆**教材名** 「課題作文 条件に応じて説得力のある文章を書く」  
(「現代の国語3年」三省堂) ※3時間目/全5時間

◆**本時のねらい**

「条件に合った説得力のある文章について、  
班で下書きを読み合い、互いに内容や表現についてのアドバイスを  
する活動を通して、  
目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめながら、文章  
全体を整えることができるようにする。」(思考・判断・表現)

【めあて】「条件に合った文章になるように推敲しよう！」

【活動】・交流の仕方を確認させる。  
・班で文章(下書き)を読み合い、互いの「良いところ」と  
「推敲ポイント」を見つけるよう指示し、それぞれ付箋に  
書かせる。  
・付箋をもとに推敲させる。  
※オンラインデジタルホワイトボード「Figjam」を使用

【振り返り】視点「本時で学んだこと、次時の学習の確認」

## 受講者の学び(「アンケート」より)

【主体的・対話的で深い学び】

○教員の説明・指示は最小限で、生徒が主体となって授業に参加できている。  
○生徒自身が見通しを持って取り組むことで学習意欲につながる。  
○生徒同士で考えを共有し、不明な点を解決していくことで、子どもが主語となる授業が実現されている。  
○目標達成度の選択と理由や気づきの記述により、深い学びにつながる「振り返り」となっている。

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

○学習に苦手意識を持つ生徒や努力を要する生徒に対する個別の支援が充実していた。  
○ICT機器の活用(ふせんの書き込み、リアルタイム共有など)により、他者の考えを参考にしながら自分の  
文章を見直し、自ら学びを進めていた。  
○活動に迷う生徒が少ない。班員同士で協力し教え合う姿が見られた。  
○先生の細やかな手立て(丁寧な説明、スクリーンの使い方、班活動中の声かけ、個別支援 他)も含めて、  
活動の内容が分かりやすく、生徒が取り組みやすかった。

